



^ 13  
3318  
14

門へ13  
3318  
14

# 住吉松園



住吉松園

目録



一 稲田少藏の事

古綿の寢氏義の事

一 津の園村角右衛門別次郎の事

今藤角右衛門の事



大正十年八月廿九日  
本大學出版部 贈

桑水常流緑並田拾尺

福田全蔵お所の事

羊古郷の泉氏と移す

口より伝来多し福田全蔵より

緞の張ぶりやうは

の玉福向々の生をあらがすのみ









つや 長又 さらま さらま さらま  
変地 居の ありま 稲田の 今氏 用  
新 さらま 今さらま 正徳の 福相  
中 さらま の 隆 別を 移えん ぐあり  
今 さらま さらま さらま 府 さらま さらま  
りの さらま さらま 田 田の さらま さらま  
つや 路 さらま さらま さらま 農業の

い さらま さらま さらま さらま さらま  
居 中 さらま さらま さらま さらま 何 さらま  
名 息 さらま さらま さらま さらま さらま  
さらま 人の 居 さらま さらま さらま さらま  
材 中 の 田 さらま さらま さらま さらま さらま  
さらま さらま さらま さらま さらま さらま  
さらま さらま さらま さらま さらま さらま













新を形せんおとを  
おと

と居申し向しつとをみろひ

く形は福祐とてけけりてを

きふん一村のりてを神ありぬ

の是ひもや福白今裁はは業

そそし着しそそし知らざりて

かむむ今もあやうまの

十はそしと伝びる今も親の

のそし心あしそあしあし

望しつよ一居申しと思ひあし

の地へ逆天り形びりた

津の園村角右路の別荘の事

并 今裁角右路の今裁

多し常陸國津の今裁







情<sup>せう</sup>存<sup>ぞん</sup>しきくもあんとあらん

接<sup>せつ</sup>接<sup>せつ</sup>——果<sup>は</sup>を<sup>を</sup>つ<sup>つ</sup>き<sup>き</sup>を<sup>を</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>月<sup>げつ</sup>

つららの途<sup>みち</sup>——ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>平<sup>へい</sup>も<sup>も</sup>く<sup>く</sup>な

う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>は<sup>は</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>は<sup>は</sup>——能<sup>よ</sup>く<sup>く</sup>者<sup>もの</sup>を<sup>を</sup>さ<sup>さ</sup>が

く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>く<sup>く</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>者<sup>もの</sup>中<sup>なか</sup>に<sup>に</sup>は<sup>は</sup>活<sup>くわ</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>

角<sup>かく</sup>右<sup>みぎ</sup>邊<sup>へ</sup>平<sup>へい</sup>平<sup>へい</sup>自<sup>みづか</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>る<sup>る</sup>白<sup>しろ</sup>い<sup>い</sup>も<sup>も</sup>を<sup>を</sup>

中<sup>なか</sup>居<sup>い</sup>は<sup>は</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>日<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>ち<sup>ち</sup>昭<sup>あき</sup>す

雲<sup>う</sup>々<sup>々</sup>々<sup>々</sup>——居<sup>い</sup>る<sup>る</sup>——<sup>が</sup>橋<sup>はし</sup>の<sup>の</sup>

々<sup>々</sup>々<sup>々</sup>々<sup>々</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>は<sup>は</sup>——<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>は<sup>は</sup>

情<sup>せう</sup>々<sup>々</sup>々<sup>々</sup>々<sup>々</sup>——<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>は<sup>は</sup>

情<sup>せう</sup>々<sup>々</sup>々<sup>々</sup>々<sup>々</sup>——<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>は<sup>は</sup>

情<sup>せう</sup>々<sup>々</sup>々<sup>々</sup>々<sup>々</sup>——<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>は<sup>は</sup>

情<sup>せう</sup>々<sup>々</sup>々<sup>々</sup>々<sup>々</sup>——<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>は<sup>は</sup>

情<sup>せう</sup>々<sup>々</sup>々<sup>々</sup>々<sup>々</sup>——<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>は<sup>は</sup>

物もふしちかき 自家の 園を せん

この 庭の つかい 金帳の 跡を

軍 一 つかい 跡を つかい つかい

まき つかい つかい つかい つかい

室の 下 つかい つかい つかい

つかい つかい つかい つかい つかい

つかい つかい つかい つかい つかい

角 つかい つかい つかい つかい つかい

つかい つかい つかい つかい つかい

つかい つかい つかい つかい つかい

つかい つかい つかい つかい つかい

み つかい つかい つかい つかい つかい

つかい つかい つかい つかい つかい

つかい つかい つかい つかい つかい

天の大勢も全根のあり  
考めごとく さまざざしく  
虎中しそくが ありん 雄を指  
のどろ 人の金も 極の  
人の之月も けざい 其種を  
の妙業めじ ちりに 融也  
人梅を 持ちし 年

らに 終る かつ 秘義  
そ ち 秘法を 悟り ぬ  
什物の ごとくに 法を ち  
三利より けり 仔細人  
も 神明の 符 逆を 託  
ちと 界の 知り 一 事

世の中 國を新し

物 ちあきあきの報知をいふ

らんがあまは 浮世をいふ

道 ありあけの道 ありあけの道

件 ありあけの道

舟の 福田の舟

角 角

また 舟の 福田の舟

舟の 福田の舟

舟の 福田の舟

舟の 福田の舟

